

Weekly Report 2022-2023



創 立 1969年4月14日
 認 認 1969年4月23日
 チャーターナイト 1969年11月9日
 発 行 I T・広 報 委 員 会

会長：遠藤直樹 / 幹事：鈴木雅博 / 会長エレクト：磯崎裕騎 / 副幹事：吉岡哲哉 / S.A.A: 吉本委子

今週のプログラム	第 2523 回	8 月 19 日
榎塚正福ガバナー補佐訪問		
担当者	会長・幹事・各委員長	例会場 JRホテルクレメント高松

先週のプログラム	第 2522 回	8 月 5 日
納涼家族例会		
担当者	親睦活動委員会	例会場 ミケイラ






納涼家族例会: ミケイラ たくさんの写真をfacebookで公開していますのでご覧ください。 

遠藤会長挨拶

・今年度、会長を仰せつかりました遠藤でございます、鈴木幹事と二人で頑張っ行ってこうと思います。

ここ数日間で、コロナ感染者が急増してきて、悩みましたが、早くから準備してくださった岩本親睦委員長ならびに親睦委員会の皆様、また日頃ロータリー活動にご理解頂いておりますご家族の皆様へ感謝をこめての開催とさせていただきます。

このサンポート近辺の景色は、とてもきれいで下見に来た時、地元で生まれ育った私たちは見慣れています、都会から転勤されて来られた会員の方からはすごく綺麗な景色と絶賛でした。改めてこの景色を壊さないようにと思いました。

また、本日より瀬戸内芸術祭夏会期が、1ヶ月間開催されますので県外からも多くの方々にお越しになると思われま。

そして3年後、次の開催時は、予定通り進めば、県立体育館、ホテル、大学が完成して一層、賑やかになって行くことをとても嬉しく思います。

最後に、今日一日、ごゆっくりなさって下さいませ。

メイクアップ

- 7月19日 2720 Japan O.K. ローターリーEクラブ 大島
- 7月31日 2720 Japan O.K. ローターリーEクラブ 大島
- 8月 2日 高松東RC 低田 磯崎
- 8月 5日 2720 Japan O.K. ローターリーEクラブ 大島

ニコニコBOX

誕生日をいただきました。	住谷
合計 1 件	
本 日 の 合 計	3,000 円
2022-2023 年 度 累 計	178,500 円


出席報告

出席委員長：大西一正	
会 員 数 / 47 名	出席規準数 / 46 名
出 席 者 数 / 27 名	欠 席 者 数 / 19 名
出 席 率 / 58.70%	ビ ジ タ ー / 0 名
最終出席率 / 7 月 15 日	50.00% → 60.87%

8 月 19 日 今日は何の日	今日生まれの有名人	
クラシック音楽の日/バイクの日	1969年 立浪和義	1946年 ビル・クリントン
1832年 鼠小僧次郎吉、処刑	1962年 風間トオ	1935年 八名信夫
1929年 ツェッペリン号霞ヶ浦に着陸	1948年 前川清	1883年 ココ・シャネ
誕生花	きんみずひき、花言葉は“感謝”	
誕生石	エメラルド(emerald)、宝石言葉は“幸福”	

我 等 の 生 業

我等の生業さまざまなかれど
 集いて図る心は一つ
 求るところは平和親睦
 力るところは向上奉仕
 おおロータリアン 我等の集い



社会奉仕に関する 1923 年の声明（日本語）

次の声明は 1923 年国際大会で採択され、以後の国際大会で改正されたものである。これは、その歴史的価値から手続要覧に含まれている（ロータリー章典 8.040.1.）。

ロータリーにおいて社会奉仕とは、ロータリアンのすべてがその個人生活、事業生活、および社会生活に奉仕の理念を適用することを奨励、育成することである。

この奉仕の理念の適用を実行することについては、多くのクラブが会員による奉仕にその機会を与えるものとして、さまざまな社会奉仕活動を進めてきている。以下に掲げる諸原則は、ロータリアンおよびロータリークラブの指針として、また、社会奉仕活動に対するロータリーの方針を明確に表すものとして適切であり、また管理に役立つものであることを認め、これを採用するものである。

1. ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕―「超我の奉仕」―の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。
2. 本来ロータリークラブは、事業および専門職務に携わる人および地域社会のリーダーの代表として、ロータリーの奉仕の哲学を受け入れ、次の四つのことを実行することを目指している人々の集まりである。
 まず第 1 に、奉仕の理論が職業および人生における成功と幸福の真の基礎であることを団体で学ぶこと。第 2 に、自分たちのあいだにおいても、また地域社会に対しても、その実際例を団体で示すこと。第 3 に、各人が個人としてこの理論をそれぞれの職業および日常生活において実践に移すこと。そして第 4 に、個人として、また団体としても大いにこの教えを説き、その実例を示すことによって、ロータリアンだけでなく、ロータリアン以外のすべての人々が、理論的にも実践的にも、これを受け入れるように励ますことである。
3. RI は次の目的のために存在する団体である。
 - a. ロータリーの奉仕の理念の擁護、育成および全世界への普及。
 - b. ロータリークラブの設立、激励、援助および運営の管理。
 - c. 一種の情報交換所として、各クラブの問題を研究し、また、強制でなく有益な助言を与えることによって各クラブの運営方法の標準化を図り、社会奉仕活動についても、既に広く多くのクラブによってその価値が実証されており、RI 定款に掲げられているロータリーの目的の趣旨にかない、これを乱すような恐れのない社会奉仕活動によってのみ、その標準化を図ること。
4. 奉仕するものは行動しなければならない。従って、ロータリーとは単なる心構えのことをいうのではなく、また、ロータリーの哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動に表さなければならない。そして、ロータリアン個人もロータリークラブも、奉仕の理論を実践に移さなければならない。そこで、ロータリークラブの団体的行動は次のような条件の下に行うように勧められている。いずれのロータリークラブも、毎年度、何か一つの主だった社会奉仕活動を、それもなるべく毎年度異なる活動を後援することが望ましい。この奉仕活動は、地域社会が本当に必要としているものに基づいたものであり、かつ、クラブ会員の一致した協力を必要とするものでなければならない。これは、クラブ会員の地域社会における個々の奉仕を奨励するためにクラブが継続的に実施しているプログラムとは別に行われるべきものとする。
5. 各ロータリークラブは、クラブとして関心があり、またその地域社会に適した社会奉仕活動を自主的に選ぶことについて絶対的な権利を

もっている。しかし、いかなるクラブも、ロータリーの目的を無視したり、ロータリークラブ結成の本来の目的を危うくするような社会奉仕活動を行ってはならない。そして RI は、一般的な奉仕活動を研究し、標準化し、推進し、これに関する有益な示唆を与えることはあっても、どんなクラブのどんな社会奉仕活動にせよ、それを絶対に禁じるべきではない。

6. 個々のロータリークラブの社会奉仕活動の選択を律する規定は別に設けられていないが、これに関する指針として以下の準則が推奨されている。
 - a. ロータリーの会員の数には限りがあるので、ロータリークラブは、市民全体の積極的な支持なくしては成功しえないような広範囲の社会奉仕活動は、他に地域社会全体のために発言し、行動する適切な市民団体などの存在しない土地の場合に限り、これを行うこととすべきであり、商工会議所のある土地では、ロータリークラブはその仕事の邪魔をしたり、横取りをしたりすることのないようにしなければならない。しかし、ロータリアンとしては、奉仕を誓い、その理念の教えを受けた個人として、その土地の商工会議所の会員となって活動すべきであり、また、その土地の市民として、他の善良な市民と一緒に、広くすべての社会奉仕活動に関与し、その能力の許す限り、金銭や仕事の上でその分を果たすべきである。
 - b. 一般的に言って、ロータリークラブは、どんな立派な事業であっても、クラブがその遂行に対する責任の全部または一部を負う用意と意思のない限り、その後援をしてはならない。
 - c. ロータリークラブが奉仕活動を選ぶ場合に宣伝をその主たる目標としてはならないが、ロータリーの影響力を拡大する一つの方法として、クラブが立派に遂行した有益な事業については正しい広報が行われるべきである。
 - d. ロータリークラブは、仕事の重複を避けるようにする必要があり、総じて、他に機関があり、それによって既に立派に行われている事業に乗り出すようなことをしてはならない。
 - e. ロータリークラブの奉仕活動は、なるべく現存の機関に協力する形で行うことが望ましいが、現存機関の設備や能力が目的の遂行に不十分である場合には、必要に応じ、新たに機関を設けることにしても差し支えない。ロータリークラブとしては、新たに重複した機関をつくるよりも、現存の機関を活用することのほうが望ましい。
 - e. ロータリークラブはそのすべての活動において、宣伝者として優れた働きをし、多大の成功を収めている。ロータリークラブは地域社会に存在する問題を見つけ出すことはしても、それがその地域社会全体の責任にかかわるものである場合には、単独でそれに手を下すようなことはしないで、他の人々にその解決の必要を悟らせる努力をし、地域社会全体にその責任を自覚させて、この仕事がロータリーだけの責任にならないで、本来その責任のある地域社会全体の仕事になるようにしている。また、ロータリーは、事業を始めたり、指導したりするが、一方、当然それに関心をもっていると考えられるほかのすべての団体の協力を得るように努力すべきであり、そして、当然ロータリークラブに帰すべき功績であっても、それに対する自分のほうの力を最小限度に評価して、そのすべてを協力者の手柄にするようにしなければならない。
 - e. クラブがひと固まりとなって行動するだけで足りるような事業よりも、広くすべてのロータリアンの個々の力を動員するもののほうがロータリーの精神によりかかっていると見える。それは、ロータリークラブでの社会奉仕活動は、ロータリークラブの会員に奉仕の訓練を施すために考えられたいわば研究室の実験としてのみこれを見るべきであるからである（ロータリー章典 8.040.1、23-34、26-6、36-15、51-9、66-49、10-165）。